

四半期報告書

(第87期第1四半期)

株式会社歌舞伎座

四 半 期 報 告 書

- 1 本書は四半期報告書を金融商品取引法第27条の30の2に規定する開示用電子情報処理組織(EDINET)を使用し提出したデータに目次及び頁を付して出力・印刷したものであります。
- 2 本書には、上記の方法により提出した四半期報告書に添付された四半期レビュー報告書及び上記の四半期報告書と同時に提出した確認書を末尾に綴じ込んでおります。

目 次

	頁
【表紙】	1
第一部 【企業情報】	2
第1 【企業の概況】	2
1 【主要な経営指標等の推移】	2
2 【事業の内容】	3
3 【関係会社の状況】	3
4 【従業員の状況】	3
第2 【事業の状況】	4
1 【営業実績】	4
2 【事業等のリスク】	4
3 【経営上の重要な契約等】	5
4 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】	6
第3 【設備の状況】	8
第4 【提出会社の状況】	9
1 【株式等の状況】	9
2 【株価の推移】	10
3 【役員の状況】	10
第5 【経理の状況】	11
1 【四半期連結財務諸表】	12
2 【その他】	20
第二部 【提出会社の保証会社等の情報】	21

四半期レビュー報告書

確認書

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成22年7月13日

【四半期会計期間】 第87期第1四半期(自平成22年3月1日至平成22年5月31日)

【会社名】 株式会社歌舞伎座

【英訳名】 KABUKI-ZA CO., LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 大谷信義

【本店の所在の場所】 東京都中央区銀座七丁目15番5号

【電話番号】 直通03(3541)5572

【事務連絡者氏名】 取締役経理部長 池田喜実

【最寄りの連絡場所】 東京都中央区銀座七丁目15番5号

【電話番号】 直通03(3541)5572

【事務連絡者氏名】 取締役経理部長 池田喜実

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

連結経営指標等

回次	第86期 第1四半期連結 累計(会計)期間	第87期 第1四半期連結 累計(会計)期間	第86期
会計期間	自 平成21年 3月1日 至 平成21年 5月31日	自 平成22年 3月1日 至 平成22年 5月31日	自 平成21年 3月1日 至 平成22年 2月28日
売上高 (千円)	671,899	617,148	2,805,917
経常利益 (千円)	91,497	11,849	421,103
四半期純利益又は四半期 (当期)純損失(△) (千円)	55,337	△149,068	△962,838
純資産額 (千円)	9,224,645	8,886,753	8,416,785
総資産額 (千円)	12,622,636	18,908,798	12,445,388
1株当たり純資産額 (円)	780.84	733.50	712.71
1株当たり四半期純利益 又は四半期(当期)純損失 (△) (円)	4.68	△12.46	△81.51
潜在株式調整後 1株当たり四半期 (当期)純利益 (円)	—	—	—
自己資本比率 (%)	73.1	47.0	67.6
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	△44,105	4,013,531	185,075
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	△2,485	△4,584,774	△560,691
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	△4,234	1,301,884	△77,864
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (千円)	1,124,060	1,452,047	721,405
従業員数 (名)	61	32	62

(注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、第86期第1四半期連結累計(会計)期間は潜在株式がないため記載しておりません。また第87期第1四半期連結累計(会計)期間及び第86期は1株当たり四半期(当期)純損失であり、また、潜在株式がないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第1四半期連結会計期間において、劇場歌舞伎座を建替えのため閉場しており、場内の食堂・飲食店及び売店の営業を4月30日をもって終了しております。

また、当社は、その他の関係会社である松竹㈱並びに松竹㈱の子会社であるKSビルキャピタル特定目的会社と、定期借地権設定に係る契約を締結しております。

3 【関係会社の状況】

当第1四半期連結会計期間において、重要な関係会社の異動はありません。

4 【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

平成22年5月31日現在

従業員数(名)	32 (37)
---------	------------

- (注) 1 従業員数は就業人員であります。
2 従業員数の(外書)は、臨時従業員の当第1四半期連結会計期間の平均雇用人員であります。
3 劇場歌舞伎座の閉鎖に伴う場内食堂・飲食店及び売店の閉鎖に伴い、連結子会社である歌舞伎座事業㈱の全従業員が4月30日をもって合意退職したことにより、当第1四半期連結会計期間において従業員数が減少しております。

(2) 提出会社の状況

平成22年5月31日現在

従業員数(名)	16
---------	----

- (注) 従業員数は就業人員であります。

第2 【事業の状況】

1 【営業実績】

当第1四半期連結会計期間における売上高実績を事業の種類別セグメントごとに示すと次のとおりであります。

事業の種類別セグメントの名称	金額(千円)	割合(%)	前年同四半期比(%)
不動産賃貸事業	175,047	28.4	△32.0
食堂・飲食事業	190,997	30.9	△14.8
売店事業	251,103	40.7	31.9
計	617,148	100.0	△8.1

(注) 1 主な相手先別売上高実績及び総売上高に対する割合は次のとおりであります。

相手先	前第1四半期連結会計期間		当第1四半期連結会計期間	
	売上高(千円)	割合(%)	売上高(千円)	割合(%)
松竹株	166,003	24.7	122,941	19.9

- 2 上記の金額には消費税等は含まれておりません。
- 3 各セグメントのうち、不動産賃貸事業及び食堂・飲食事業の部門別売上高実績、総売上高に対する割合は以下のとおりであります。

(不動産賃貸事業)

区分	金額(千円)	割合(%)	前年同四半期比(%)
建物の賃貸	171,349	97.9	△31.9
駐車場の賃貸	3,697	2.1	△34.4
計	175,047	100.0	△32.0

(食堂・飲食事業)

区分	金額(千円)	割合(%)	前年同四半期比(%)
劇場内食堂・飲食	156,093	81.7	△18.0
劇場外食堂・飲食	34,903	18.3	3.5
計	190,997	100.0	△14.8

上記の金額には消費税等は含まれておりません。

2 【事業等のリスク】

当第1四半期連結会計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。

また、前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」について重要な変更はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等は次のとおりです。

(1) 定期借地権設定に係る契約

①契約先 KSビルキャピタル特定目的会社及び松竹株式会社

②契約期間 平成22年3月30日より53年間

なお、KSビルキャピタル特定目的会社より53年間の地代の一部を前受地代として15,371,689千円を受領し、松竹株式会社へは53年間の地代の一部を前払地代として371,689千円を支払うこととなっております。

(2) 劇場建築工事に係る工事請負契約及び設計監理業務委託契約

①契約先 清水建設株式会社及び株式会社三菱地所設計・株式会社隈研吾建築都市設計事務所

②工期 着工 平成22年10月1日 竣工 平成25年2月28日

③工事等請負金額 11,406,000千円

(3) 建替承諾料に係る契約

①契約先 松竹株式会社

②支払金額 1,504,000千円

(4) 土地賃貸借更新等に係る契約

①契約先 個人(当社と利害関係はありません。)

②契約期間 平成22年3月30日より60年間

(5) 建替スキームに係る担保権設定契約

①契約先 KSビルキャピタル特定目的会社

②契約名称 抵当権設定契約、借地権質権設定契約、債権質権設定契約

③被担保債権 定期借地権設定契約に基づく前払地代返還請求権

④担保提供資産 土地、借地権、工事請負契約に基づく建物引渡請求権等

(6) 建替関連諸費用の支払に係る当座貸越契約

①借入先 株式会社みずほコーポレート銀行

②借入金額 当座貸越 500,000千円
(当座貸越枠 3,500,000千円)

③利率 初回適用利率 1.300%

④借入日 平成22年3月16日

⑤返済期日 平成22年8月31日

⑥担保提供資産 関係会社株式

(7) その他上記に付随する事項

4 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 業績の状況

当第1四半期連結会計期間におけるわが国経済は、海外経済の改善や緊急経済対策の効果などを背景に、企業収益の改善や設備投資の下げ止まりといった景気回復の傾向は見られたものの、雇用情勢は依然として厳しく、緩やかなデフレ状況が続いていること等先行き不透明な状況で推移いたしました。

このような経済情勢のもと、平成22年4月をもって劇場歌舞伎座を建替えのため閉場したことにより、当社グループの当第1四半期連結会計期間の売上高は617,148千円(前年同期比8.1%減)、営業利益は3,795千円(前年同期比95.2%減)、経常利益は11,849千円(前年同期比87.0%減)、四半期純損失は149,068千円(前年同期は55,337千円の四半期純利益)となりました。

これを事業の種類別にみると、不動産賃貸事業については、劇場賃貸収入が4月までとなったことによる賃料収入の減少等により、売上高は175,047千円(前年同期比32.0%減)、営業利益は113,660千円(前年同期比36.1%減)となりました。

食堂・飲食事業及び売店事業においては、3月から4月までの「歌舞伎座さよなら公演」が大盛況に推移するなか、食堂・飲食事業の売上高については190,997千円(前年同期比14.8%減)となりましたが、原材料費や人件費等の経費増により4,151千円の営業損失(前年同期は4,116千円の営業損失)となりました。売店事業の売上高については、さよなら公演関連商品の売上が好調に推移したことにより251,103千円(前年同期比31.9%増)となり、営業利益は34,655千円(前年同期比138.3%増)となりました。

(2) 財政状態

当第1四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ6,463,409千円増加し18,908,798千円となりました。

(資産)

流動資産は、前連結会計年度末に比べ535,069千円増加し1,504,355千円となりました。主な増減は、現金及び預金の増加730,641千円及び繰延税金資産の減少137,324千円であります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べ5,928,339千円増加し17,404,442千円となりました。主な増減は、劇場建替え関連の建設仮勘定の増加4,018,420千円、借地権の増加1,963,323千円及び投資有価証券の時価評価による減少139,471千円並びに長期前払費用の増加106,736千円であります。

(負債)

流動負債は、前連結会計年度末に比べ1,661,367千円増加し4,849,687千円となりました。主な増減は、劇場建替え関連の未払金の増加1,748,518千円、前連結会計年度に計上した建替関連損失引当金の取り崩し等による減少455,034千円、1年内返還予定の預り保証金の減少302,128千円及び短期借入金の増加300,000千円並びに未払法人税等の増加259,537千円であります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べ4,332,072千円増加し5,172,356千円となりました。主な増減は、劇場の定期借地権設定に係る契約に基づいてK S ビルキャピタル特定目的会社より受領した地代の一部を長期前受金として4,416,300千円計上したこと等によるものであります。

(純資産)

純資産合計は、前連結会計年度末に比べ469,968千円増加し8,886,753千円となりました。主な増減は、連結子会社である歌舞伎座事業㈱が保有していた親会社株式(自己株式)を全て処分したことによる資本剰余金の増加(自己株式処分差益)666,611千円、利益剰余金の減少208,116千円及び自己株式を処分したことによる増加94,569千円並びにその他有価証券評価差額金の減少83,095千円であります。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第1四半期連結会計期間におけるキャッシュ・フローは、営業活動により4,013,531千円増加し、投資活動により4,584,774千円減少し、財務活動により1,301,884千円増加しました。その結果現金及び現金同等物(以下、「資金」という。)は、730,641千円増加し、当四半期連結会計期間末には1,452,047千円となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動による資金の増加は、4,013,531千円(前年同期との比較では4,057,637千円の資金の増加)となりました。これは主に、長期前受金の増加額4,416,300千円及び建替関連損失引当金の取り崩し等による減少額370,034千円並びに預り保証金の返還による減少額91,558千円等によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動による資金の減少は、4,584,774千円(前年同期との比較では4,582,289千円の資金の減少)となりました。これは主に、有形固定資産(主に建設仮勘定)の取得による支出4,040,184千円及び無形固定資産(借地権)の取得による支出544,323千円等によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動による資金の増加は、1,301,884千円(前年同期との比較では1,306,118千円の資金の増加)となりました。これは主に、連結子会社の親会社株式(自己株式)の処分による収入1,060,938千円、短期借入れによる収入500,000千円及び短期借入金の返済による支出200,000千円並びに配当金の支払額59,053千円によるものであります。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結会計期間において、当連結会社の事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(5) 研究開発活動

該当事項はありません。

第3 【設備の状況】

(1) 主要な設備の状況

前連結会計年度に決定した歌舞伎座の建替え計画に基づき、当第1四半期連結会計期間において劇場歌舞伎座等の取り壊しを開始し、劇場等(東京都中央区)の有形固定資産(土地を除く)を除却しております。

(2) 設備の新設、除却等の計画

当第1四半期連結会計期間において、前連結会計年度末に計画中であった重要な設備の新設、除却等について、重要な変更並びに重要な設備計画の完了はありません。

なお、当第1四半期連結会計期間において、新たに確定した重要な設備の新設、除却等の計画はありません。

第4 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

① 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	28,000,000
計	28,000,000

② 【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成22年5月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成22年7月13日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	12,170,000	12,170,000	東京証券取引所 (市場第二部)	単元株式数 1,000株
計	12,170,000	12,170,000	—	—

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成22年3月1日～ 平成22年5月31日	—	12,170,000	—	2,365,180	—	2,405,394

(6) 【大株主の状況】

大量保有報告書の写しの送付がなく、当第1四半期会計期間において、大株主の異動は把握しておりません。なお、当社の連結子会社である歌舞伎座事業株式会社は、保有する親会社株式(相互保有株式)を全株処分したため、当第1四半期会計期間末日現在上位10名の大株主でなくなりました。

(7) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の議決権の状況については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができませんので、直前の基準日である平成22年2月28日の株主名簿により記載しております。

① 【発行済株式】

平成22年2月28日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 54,000	—	—
	(相互保有株式) 普通株式 306,000	—	—
完全議決権株式(その他)	普通株式 11,075,000	11,075	—
単元未満株式	普通株式 735,000	—	1単元(1,000株)未満の株式
発行済株式総数	12,170,000	—	—
総株主の議決権	—	11,075	—

(注) 単元未満株式には、当社所有の自己株式341株及び歌舞伎座事業(株)所有の相互保有株式106株が含まれております。なお、歌舞伎座事業(株)所有の相互保有株式306,106株は当第1四半期会計期間において全て処分されております。

② 【自己株式等】

平成22年2月28日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) (株)歌舞伎座	中央区銀座7-15-5	54,000	—	54,000	0.44
(相互保有株式) 歌舞伎座事業(株)	中央区銀座4-12-15	306,000	—	306,000	2.51
計	—	360,000	—	360,000	2.96

(注) 歌舞伎座事業(株)所有の相互保有株式は当第1四半期連結会計期間において全て処分されております。

2 【株価の推移】

【当該四半期累計期間における月別最高・最低株価】

月別	平成22年 3月	4月	5月
最高(円)	3,725	3,630	3,635
最低(円)	3,565	3,550	3,500

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所市場第二部におけるものであります。

3 【役員状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期報告書提出日までの役員の異動はありません。

第5 【経理の状況】

1 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号。以下「四半期連結財務諸表規則」という。）に基づいて作成しております。

なお、前第1四半期連結累計期間（平成21年3月1日から平成21年5月31日まで）は、改正前の四半期連結財務諸表規則に基づき、当第1四半期連結会計期間（平成22年3月1日から平成22年5月31日まで）及び当第1四半期連結累計期間（平成22年3月1日から平成22年5月31日まで）は、改正後の四半期連結財務諸表規則に基づいて作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、前第1四半期連結累計期間（平成21年3月1日から平成21年5月31日まで）に係る四半期連結財務諸表並びに当第1四半期連結会計期間（平成22年3月1日から平成22年5月31日まで）及び当第1四半期連結累計期間（平成22年3月1日から平成22年5月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、新創監査法人により四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】
 (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	当第1四半期連結会計期間末 (平成22年5月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年2月28日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,452,047	721,405
売掛金	14,060	72,759
たな卸資産	※1 5,716	※1 16,452
繰延税金資産	5,550	142,875
その他	27,781	16,755
貸倒引当金	△800	△962
流動資産合計	1,504,355	969,286
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	551,867	568,749
土地	※3 6,236,253	6,236,253
建設仮勘定	4,034,597	16,177
その他（純額）	51,784	56,366
有形固定資産合計	※2 10,874,503	※2 6,877,547
無形固定資産		
借地権	※3 2,597,095	633,771
商標権	76	89
ソフトウェア	6,650	7,060
電話加入権	—	1,870
無形固定資産合計	2,603,821	642,791
投資その他の資産		
投資有価証券	※3 3,779,467	※3 3,918,938
長期前払費用	107,495	758
その他	39,154	36,065
投資その他の資産合計	3,926,117	3,955,763
固定資産合計	17,404,442	11,476,102
資産合計	18,908,798	12,445,388

(単位：千円)

	当第1四半期連結会計期間末 (平成22年5月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年2月28日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	99,934	165,704
短期借入金	※3 500,000	※3 200,000
1年内返済予定の長期借入金	※3 940,000	※3 940,000
未払金	1,849,325	100,807
未払法人税等	302,791	43,254
前受金	※3 196,646	23,074
賞与引当金	9,187	4,528
建替関連損失引当金	829,700	1,284,734
1年内返還予定の預り保証金	79,984	382,112
その他	42,117	44,104
流動負債合計	4,849,687	3,188,319
固定負債		
長期末払金	167,303	193,177
長期前受金	※3 4,416,300	—
繰延税金負債	248,494	306,443
退職給付引当金	36,359	35,253
長期預り保証金	303,897	305,409
固定負債合計	5,172,356	840,283
負債合計	10,022,044	4,028,603
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,365,180	2,365,180
資本剰余金	3,167,649	2,501,038
利益剰余金	3,171,638	3,379,754
自己株式	△242,387	△336,956
株主資本合計	8,462,080	7,909,016
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	424,673	507,768
評価・換算差額等合計	424,673	507,768
純資産合計	8,886,753	8,416,785
負債純資産合計	18,908,798	12,445,388

(2) 【四半期連結損益計算書】
【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成21年3月1日 至平成21年5月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成22年3月1日 至平成22年5月31日)
売上高	671,899	617,148
売上原価	465,209	458,569
売上総利益	206,689	158,578
販売費及び一般管理費		
人件費	80,048	71,235
賞与引当金繰入額	7,156	4,055
退職給付費用	2,091	1,391
支払報酬	—	32,450
租税公課	3,197	2,841
減価償却費	643	1,459
その他	34,039	41,350
販売費及び一般管理費合計	127,177	154,782
営業利益	79,511	3,795
営業外収益		
受取利息	244	194
受取配当金	15,067	15,067
その他	3,214	1,707
営業外収益合計	18,526	16,969
営業外費用		
支払利息	5,280	7,579
株式交付費償却	533	—
有形固定資産除却損	701	244
その他	24	1,091
営業外費用合計	6,540	8,915
経常利益	91,497	11,849
特別利益		
建替関連損失引当金戻入額	—	3,930
特別利益合計	—	3,930
特別損失		
建替関連損失	—	28,531
特別損失合計	—	28,531
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	91,497	△12,752
法人税、住民税及び事業税	36,745	565
法人税等調整額	△585	135,751
法人税等合計	36,159	136,316
四半期純利益又は四半期純損失(△)	55,337	△149,068

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成21年3月1日 至平成21年5月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成22年3月1日 至平成22年5月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	91,497	△12,752
減価償却費	27,292	9,193
建替関連損失引当金の増減額(△は減少)	—	△370,034
貸倒引当金の増減額(△は減少)	47	△161
賞与引当金の増減額(△は減少)	17,461	4,659
退職給付引当金の増減額(△は減少)	3,961	1,106
受取利息及び受取配当金	△15,311	△15,261
支払利息	5,280	7,579
株式交付費償却	533	—
有形固定資産除却損	701	19,021
売上債権の増減額(△は増加)	△8,428	58,698
たな卸資産の増減額(△は増加)	10	10,736
仕入債務の増減額(△は減少)	△8,264	△65,769
未払消費税等の増減額(△は減少)	△368	△5,620
長期未払金の増減額(△は減少)	△4,592	△25,874
長期前受金の増減額(△は減少)	—	4,416,300
預り保証金の増減額(△は減少)	—	△91,558
長期預り保証金の増減額(△は減少)	△87,589	△1,512
その他	5,194	101,847
小計	27,427	4,040,599
利息及び配当金の受取額	15,311	15,261
利息の支払額	△5,421	△6,178
法人税等の支払額	△81,423	△36,150
営業活動によるキャッシュ・フロー	△44,105	4,013,531
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△63	△4,040,184
有形固定資産の除却による支出	△471	△265
無形固定資産の取得による支出	△1,950	△544,323
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,485	△4,584,774
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	—	500,000
短期借入金の返済による支出	—	△200,000
自己株式の処分による収入	—	1,060,938
自己株式の取得による支出	△4,194	—
配当金の支払額	△77	△59,053
その他	37	0
財務活動によるキャッシュ・フロー	△4,234	1,301,884
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△50,825	730,641
現金及び現金同等物の期首残高	1,174,885	721,405
現金及び現金同等物の四半期末残高	※ 1,124,060	※ 1,452,047

【継続企業の前提に関する事項】

当第1四半期連結会計期間(自 平成22年3月1日 至 平成22年5月31日)
該当事項はありません。

【四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更】

当第1四半期連結会計期間(自 平成22年3月1日 至 平成22年5月31日)
該当事項はありません。

【表示方法の変更】

当第1四半期連結会計期間 (自 平成22年3月1日 至 平成22年5月31日)	
四半期連結損益計算書	前第1四半期連結累計期間において、販売費及び一般管理費の「その他」に含めて表示しておりました「支払報酬」は販売費及び一般管理費総額の100分の20を超えたため、区分掲記しております。なお、前第1四半期連結累計期間の販売費及び一般管理費の「その他」に含まれる「支払報酬」は5,865千円であります。

【簡便な会計処理】

当第1四半期連結会計期間 (自 平成22年3月1日 至 平成22年5月31日)	
1 棚卸資産の評価方法	棚卸資産の簿価切下げに関しては、収益性の低下が明らかなものについてのみ正味売却価額を見積り、簿価切下げを行う方法によっております。
2 法人税等並びに繰延税金資産及び繰延税金負債の算定方法	法人税等の納付税額の算定に関しては、加味する加減算項目や税額控除項目を重要なものに限定する方法によっております。 繰延税金資産の回収可能性の判断に関しては、前連結会計年度末以降に経営環境等、かつ、一時差異等の発生状況に著しい変化がないと認められる場合には、前連結会計年度において使用した将来の業績予測やタックス・プランニングを利用する方法によっております。

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

当第1四半期連結会計期間末 (平成22年5月31日)	前連結会計年度末 (平成22年2月28日)
※1 たな卸資産の内訳は次のとおりであります。	※1 たな卸資産の内訳は次のとおりであります。
商品及び製品 4,018千円	商品及び製品 8,798千円
原材料及び貯蔵品 1,697千円	原材料及び貯蔵品 7,654千円
※2 有形固定資産減価償却累計額 1,529,320千円	※2 有形固定資産減価償却累計額 5,324,155千円

当第1四半期連結会計期間末 (平成22年5月31日)	前連結会計年度末 (平成22年2月28日)																																
<p>※3 担保資産</p> <p>担保に供している資産及び担保に付している債務は次のとおりであります。</p> <p>① 当第1四半期連結会計期間に変動があったもの</p> <p>(1) 担保に供している資産</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding-left: 20px;">投資有価証券</td> <td style="text-align: right;">2,222,240千円</td> </tr> </table> <p>(2) 担保付債務</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding-left: 20px;">短期借入金</td> <td style="text-align: right;">500,000千円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 40px;">1年以内返済予定の</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">長期借入金</td> <td style="text-align: right;">940,000千円</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right; padding-right: 20px;">計</td> <td style="text-align: right;">1,440,000千円</td> </tr> </table> <p>② 当第1四半期連結会計期間に新たに発生したもの</p> <p>(1) 担保に供している資産</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding-left: 20px;">土地</td> <td style="text-align: right;">3,745,504千円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">借地権</td> <td style="text-align: right;">2,588,323千円</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right; padding-right: 20px;">計</td> <td style="text-align: right;">6,333,828千円</td> </tr> </table> <p>上記資産以外に(劇場歌舞伎座建築)工事請負契約に基づく建物引渡請求権等</p> <p>(2) 担保付債務</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding-left: 20px;">前受金</td> <td style="text-align: right;">195,206千円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">長期前受金</td> <td style="text-align: right;">4,416,300千円</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right; padding-right: 20px;">計</td> <td style="text-align: right;">4,611,506千円</td> </tr> </table>	投資有価証券	2,222,240千円	短期借入金	500,000千円	1年以内返済予定の		長期借入金	940,000千円	計	1,440,000千円	土地	3,745,504千円	借地権	2,588,323千円	計	6,333,828千円	前受金	195,206千円	長期前受金	4,416,300千円	計	4,611,506千円	<p>※3 担保資産</p> <p>担保に供している資産及び担保に付している債務は次のとおりであります。</p> <p>(1) 担保に供している資産</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding-left: 20px;">投資有価証券</td> <td style="text-align: right;">2,304,112千円</td> </tr> </table> <p>(2) 担保付債務</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding-left: 20px;">短期借入金</td> <td style="text-align: right;">200,000千円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 40px;">1年以内返済予定の</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">長期借入金</td> <td style="text-align: right;">940,000千円</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right; padding-right: 20px;">計</td> <td style="text-align: right;">1,140,000千円</td> </tr> </table> <p>なお、短期借入金200,000千円については子会社が所有する親会社株式54,693千円を担保に供しております。</p>	投資有価証券	2,304,112千円	短期借入金	200,000千円	1年以内返済予定の		長期借入金	940,000千円	計	1,140,000千円
投資有価証券	2,222,240千円																																
短期借入金	500,000千円																																
1年以内返済予定の																																	
長期借入金	940,000千円																																
計	1,440,000千円																																
土地	3,745,504千円																																
借地権	2,588,323千円																																
計	6,333,828千円																																
前受金	195,206千円																																
長期前受金	4,416,300千円																																
計	4,611,506千円																																
投資有価証券	2,304,112千円																																
短期借入金	200,000千円																																
1年以内返済予定の																																	
長期借入金	940,000千円																																
計	1,140,000千円																																

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

前第1四半期連結累計期間 (自 平成21年3月1日 至 平成21年5月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成22年3月1日 至 平成22年5月31日)								
<p>※ 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding-left: 20px;">現金及び預金</td> <td style="text-align: right;">1,124,060千円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">現金及び現金同等物</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">1,124,060千円</td> </tr> </table>	現金及び預金	1,124,060千円	現金及び現金同等物	1,124,060千円	<p>※ 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding-left: 20px;">現金及び預金</td> <td style="text-align: right;">1,452,047千円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">現金及び現金同等物</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">1,452,047千円</td> </tr> </table>	現金及び預金	1,452,047千円	現金及び現金同等物	1,452,047千円
現金及び預金	1,124,060千円								
現金及び現金同等物	1,124,060千円								
現金及び預金	1,452,047千円								
現金及び現金同等物	1,452,047千円								

(株主資本等関係)

当第1四半期連結会計期間末(平成22年5月31日)及び当第1四半期連結累計期間(自平成22年3月1日至平成22年5月31日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当第1四半期 連結会計期間末
普通株式(株)	12,170,000

2 自己株式に関する事項

株式の種類	当第1四半期 連結会計期間末
普通株式(株)	54,447

3 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

4 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成22年5月28日 定時株主総会	普通株式	60,578	5	平成22年2月28日	平成22年5月31日	利益剰余金

(注) 配当金の総額には、連結子会社が所有する自己株式に係る配当金が含まれております。控除後の金額は59,047千円であります。

(2) 基準日が当連結会計年度の開始の日から当四半期連結会計期間末までに属する配当のうち、配当の効力発生日が当四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

5 株主資本の金額の著しい変動に関する事項

該当事項はありません。

(有価証券関係)

当第1四半期連結会計期間末(平成22年5月31日)

有価証券の当第1四半期連結貸借対照表計上額その他の金額は前連結会計年度末に比べて著しい変動が認められないため、記載しておりません。

(デリバティブ取引関係)

当第1四半期連結会計期間末(平成22年5月31日)

当社グループはデリバティブ取引(ヘッジ会計が適用されているものを除く。)を行っていないため、該当事項はありません。

(ストック・オプション等関係)

当第1四半期連結会計期間(自平成22年3月1日至平成22年5月31日)

該当事項はありません。

(企業結合等関係)

当第1四半期連結会計期間(自平成22年3月1日至平成22年5月31日)

該当事項はありません。

(セグメント情報)

【事業の種類別セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自平成21年3月1日至平成21年5月31日)

	不動産 賃貸事業 (千円)	食堂・飲食 事業 (千円)	売店事業 (千円)	計 (千円)	消去 又は全社 (千円)	連結 (千円)
売上高						
(1) 外部顧客に 対する売上高	257,258	224,202	190,437	671,899	—	671,899
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	40,608	694	—	41,302	(41,302)	—
計	297,866	224,897	190,437	713,201	(41,302)	671,899
営業利益又は営業損失(△)	177,774	△4,116	14,542	188,201	(108,689)	79,511

(注) 事業区分は、内部管理上採用している区分によっております。

事業区分	事業内容
不動産賃貸事業	劇場、事務所等の賃貸及び駐車場の賃貸事業
食堂・飲食事業	劇場内外における食堂、飲食店事業
売店事業	劇場内の土産物などの売店事業

当第1四半期連結累計期間(自平成22年3月1日至平成22年5月31日)

	不動産 賃貸事業 (千円)	食堂・飲食 事業 (千円)	売店事業 (千円)	計 (千円)	消去 又は全社 (千円)	連結 (千円)
売上高						
(1) 外部顧客に 対する売上高	175,047	190,997	251,103	617,148	—	617,148
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	39,413	332	63	39,809	(39,809)	—
計	214,460	191,330	251,166	656,957	(39,809)	617,148
営業利益又は営業損失(△)	113,660	△4,151	34,655	144,164	(140,369)	3,795

(注) 事業区分は、内部管理上採用している区分によっております。

事業区分	事業内容
不動産賃貸事業	劇場、事務所等の賃貸及び駐車場の賃貸事業
食堂・飲食事業	劇場内外における食堂、飲食店事業
売店事業	劇場内の土産物などの売店事業

【所在地別セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自平成21年3月1日至平成21年5月31日)及び当第1四半期連結累計期間(自平成22年3月1日至平成22年5月1日)

該当事項はありません。(在外連結子会社及び在外支店はありません。)

【海外売上高】

前第1四半期連結累計期間(自平成21年3月1日至平成21年5月31日)及び当第1四半期連結累計期間(自平成22年3月1日至平成22年5月1日)

該当事項はありません。(海外売上高はありません。)

(1株当たり情報)

1 1株当たり純資産額

当第1四半期連結会計期間末 (平成22年5月31日)		前連結会計年度末 (平成22年2月28日)	
1株当たり純資産額	733円50銭	1株当たり純資産額	712円71銭

(注) 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	当第1四半期連結会計期間末 (平成22年5月31日)	前連結会計年度末 (平成22年2月28日)
純資産の部の合計額 (千円)	8,886,753	8,416,785
普通株式に係る純資産額 (千円)	8,886,753	8,416,785
普通株式の発行済株式数 (株)	12,170,000	12,170,000
普通株式の自己株式数 (株)	54,447	360,447
1株当たり純資産額の算定に用いられた 普通株式の数 (株)	12,115,553	11,809,553

2 1株当たり四半期純利益又は四半期純損失等

前第1四半期連結累計期間 (自平成21年3月1日 至平成21年5月31日)		当第1四半期連結累計期間 (自平成22年3月1日 至平成22年5月31日)	
1株当たり四半期純利益金額	4円68銭	1株当たり四半期純損失金額	12円46銭
潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式がないため記載しておりません。		潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、1株当たり四半期純損失であり、また潜在株式がないため記載しておりません。	

(注) 1株当たり四半期純利益又は四半期純損失の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第1四半期連結累計期間 (自平成21年3月1日 至平成21年5月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成22年3月1日 至平成22年5月31日)
四半期連結損益計算書上の四半期純利益 又は四半期純損失(△) (千円)	55,337	△149,068
普通株式に係る四半期純利益 又は四半期純損失(△) (千円)	55,337	△149,068
普通株式の期中平均株式数 (株)	11,814,037	11,962,553

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成21年 7月 7日

株式会社歌舞伎座
取締役会 御中

新創監査法人

指定社員
業務執行社員 公認会計士 篠原 一馬 印

指定社員
業務執行社員 公認会計士 坂下 貴之 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社歌舞伎座の平成21年3月1日から平成22年2月28日までの連結会計年度の第1四半期連結累計期間(平成21年3月1日から平成21年5月31日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書及び四半期連結キャッシュ・フロー計算書について四半期レビューを行った。この四半期連結財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューは、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続により行われており、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べ限定された手続により行われた。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社歌舞伎座及び連結子会社の平成21年5月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれておりません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成22年7月9日

株式会社歌舞伎座
取締役会 御中

新創監査法人

指定社員 公認会計士 篠原一馬 印
業務執行社員

指定社員 公認会計士 坂下貴之 印
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社歌舞伎座の平成22年3月1日から平成23年2月28日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間(平成22年3月1日から平成22年5月31日まで)及び第1四半期連結累計期間(平成22年3月1日から平成22年5月31日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書及び四半期連結キャッシュ・フロー計算書について四半期レビューを行った。この四半期連結財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューは、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続により行われており、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べ限定された手続により行われた。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社歌舞伎座及び連結子会社の平成22年5月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

-
- (注) 1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれておりません。

【表紙】

【提出書類】	確認書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の8第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成22年7月13日
【会社名】	株式会社歌舞伎座
【英訳名】	KABUKI-ZA CO., LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 大谷信義
【最高財務責任者の役職氏名】	該当事項はありません。
【本店の所在の場所】	東京都中央区銀座七丁目15番5号
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

1 【四半期報告書の記載内容の適正性に関する事項】

代表取締役社長大谷信義は、当社の第87期第1四半期(自平成22年3月1日至平成22年5月31日)の四半期報告書の記載内容が金融商品取引法令に基づき適正に記載されていることを確認いたしました。

2 【特記事項】

確認に当たり、特記すべき事項はありません。